

令和4年度

ノーリフティングケア普及促進事業 実践報告

はくりゅう園のはじめの一步

～ 定年を超えても働ける環境作り ～

社会福祉法人 庄内福祉会
特別養護老人ホーム はくりゅう園



当施設の特徴

- **従来型個室、平屋建て施設**
- A、B、Cエリア各20名の入所
- 介護職員 24名
(男性9名 女性15名)
- 看護職員 7名 ● 理学療法士 2名

平均要介護度は4.1

全介助レベルの方も多数入居しており、**抱え上げの介助が常態化している状況。**
皮下出血や表皮剥離等の事故もあり。

介護職員の平均年齢
46.9歳



ノーリフティングケア導入のきっかけと目標

きっかけ

平成27年
移乗ロボット（サスケ）を
導入するも活用できず

- ・ 介助量の多い利用者の増加
- ・ 職員の介護負担増加
- ・ 65歳定年を超えて働く
介護職員の増加
- ・ 皮下出血等、事故の発生

**上記課題の解決のため
ノーリフティングケアに参入**

目標

- ・ 事故の予防
- ・ ご利用者様の自立支援
- ・ ケアの統一化
- ・ 身体負担の軽減
⇒ 長く働ける職場作り

**ご利用者様も職員も
WIN-WINな環境に!!**



研修前の管理者と現場の意識の違い

管理者

職員の身体的負担を
減らしたい。
事故を減らしたい。
みんなが楽になるように
改善したい。

現場

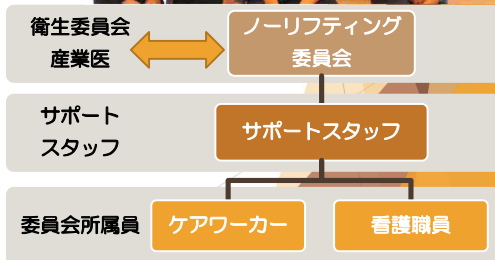
ノーリフティングケアってなに？
何をしたらいいの？
抱えた方がはやくない？
めんどくさい。
今のままでいいのに。
業務負担が増えそう。

**意識の共有が全く出来ておらず、
現場との温度差が生じていた**



ノーリフティング委員会発足

統括マネージャー：施設長
 健康管理：看護主任
 技術教育：理学療法士・介護主任
 プランニング：ケアマネージャー
 福祉用具管理：生活相談員
 サポートスタッフ：
 Bエリアケアワーカー中心に



週に一回会議を行い、情報を共有。
 多職種で連携を行っている。

ノーリフティングケア推進委員会の歩み

- 6月：ノーリフティングケア事業開始
 ⇒施設内でのノーリフティングケア宣言
 ノーリフティングケア推進委員会の発足と始動
- 7月：職員へのマニュアル研修開始
- 8月：職員への実技指導開始
- 9月：ノーリフティングケア専用ファイルの作成
 福祉用具のデモ開始、
 スライディングボードの購入と使用開始
- 10月：フレックスボードの購入と使用開始、職員のラジオ体操開始
- 11月：スライディングシート購入、サポートスタッフの選定
- 12月：スライディングシート・ボードの追加購入

6月23日
コロナ発生!!
(クラスター)

8月11日
コロナ発生!!

コロナ禍で
 計画通りに進まない



福祉用具の現状と購入

ベッドは全室電動ベッド
 しかし福祉用具はない状態

**ゼロからの
 スタート**

R5.1現在

- フレックスボード1枚
- スライディングシート3枚
- スライディングボード4枚
- スライディンググローブ2組
- リフト・
- スタンディングリフト0台



デモを導入し、現場の意見を聴取しながら、比較的導入しやすい物品から購入を行った。

購入はしたけれど、...

介護主任に現場の意見を聞きながら使用者とタイミングを決めて道具の使用を進めていくが、使用する職員もいるが 全く使用しない職員もいて、結局、道具浸透率が低い状況。

なんでこれを使うの？
 忘れてた。
 使った方が腰が痛い。
 正直めんどくさい。
使い方に自信がない。



現場の声

実技指導の結果

プラス面

- とりあえず使ってみよう！という意識が芽生えた。
- 福祉用具や体の使い方が理解できるようになった。
- 福祉用具に対する抵抗感が少し減った。



マイナス面

- 勤務の都合上、実技指導に参加できない。
- 指導するも現場での実施率が低い。
- **反対する職員や受け身の職員が多い。**



職員の意識を変える為に

変更前

- 委員会発足当初はサポートスタッフはBエリアスタッフの5名としていた
- 実技指導はPTが行っていたが業務内での指導は実施出来なかった
- サポートスタッフが会議に出席できず、情報共有が出来ていなかった

変更後

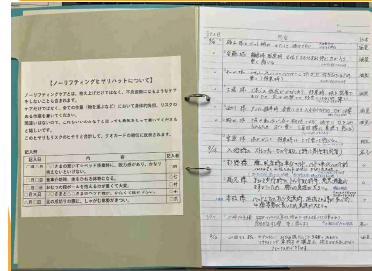
- ABCの各エリアからサポートスタッフを1名ずつ選出再度ノーリフティングケアの概要・実技指導を実施
- 現場での指導を可能な範囲で実施
- 会議をサポートスタッフが出席しやすい時間に変更
- サポートスタッフの意見を書く共有フォルダの作成

委員会で何が行われているかを直に伝えることで、理解が得られやすくなった。現場の意見が取り入れやすくなった。



ノーリフティングケア専用ファイルの作成と情報共有

ノーリフティングケア専用のファイルを作成



週1回委員会で検討



対策の実施



PDCAサイクルの流れを作る為にノートの活用を促している

実施してみた不具合や状況をノートに記載、又は委員会メンバーに報告

6ヶ月後の現状

成果

- 腰痛予防の為にラジオ体操が定着してきた。
- 「常に腰痛あり」の職員が13%(6月)から9%(12月)に軽減。
- 技術指導により福祉用具の使用に対する抵抗感が軽減してきた。
- サポートスタッフの協力のおかげで現場の声が取り入れやすくなった。



課題

- 職員の意識の統一
- 常態化している「抱え上げ介助」からの完全脱却
- 現在ある福祉用具の活用
- 職員間での技術差やノーリフティングケアの理解の差を縮める
- ノーリフティングケア専用ファイルの記載を増やす工夫



2年目の目標

- サポートスタッフと連携を取りつつ、専用ファイル以外にも情報発信のルートを構築し、現場への実技・意識の定着を図る。
- 福祉用具使用率の向上と使用範囲の拡大。
- ご利用者様に合わせた福祉用具の選定・再検討の繰り返しを継続。
- **ノーリフティングケア取り組みへの雰囲気づくり**
⇒ **職員の意識を統一し、楽しんで取り組めるように!!**

